

市町村国保運営協議会会長が一堂に会し、 国保制度改革に向けた認識を新たに 岐阜県国民健康保険運営協議会会長連絡協議会

8月23日（水）、OKBふれあい会館において、市町村国保運営協議会相互の連携強化を図るとともに、国保制度改革の現状と今後の動向や国保事業のあり方等について認識を共有することを目的に開催され、各市町村国保運営協議会会長及び国保担当課長等68人の出席がありました。



開会にあたり、本連絡協議会の後藤真一会長（岐阜市連協会長）より主催者あいさつが行われました。また、岐阜県健康福祉部医療整備課国民健康保険室の勝野富雄室長と本会の小川敏理理事長、水野光二副理事長、近田和彦常務理事が来賓として参加



▲小川理事長



▲岐阜県 勝野室長



▲後藤会長



▲大鋸副会長



▲特別講演
木村准教授



▲基調講演
和田国民健康保険
指導調整官

され、勝野室長及び小川理事長よりあいさつが述べられました。

次に、厚生労働省保険局国民健康保険課国民健康保険指導調整官の和田英之氏より、「国民健康保険制度の改革に向けて」と題した基調講演が行われ、国民健康保険制度の現状と課題、国保制度改革後の財政運営や改革のスケジュールなどについて説明されました。

また、国保改革の中で、市町村保険者には庁内横断的な健康づくり、地域づくりなどに注力し、医療費の効率化・適正化を進めることが求められると述べられました。

続いて、岐阜大学大学院医学系研究科神経内科・老年学分野准教授の木村暁夫氏より「フレイルとは…現状と対策について」と題した特別講演が行われました。

フレイルとは、加齢により環境因



子に対する脆弱性が高まった状態のことで、フレイルになると、感染症や事故、手術などの外的ストレスにより、容易に要介護状態になるが、しかるべき介入により再び健全な状態に戻るという可逆性が含まれており、身体的フレイルの対策としては積極的な運動（筋トレ）と栄養介入が重要であると述べられました。

さらに、フレイルの概念が一般市民に浸透していないため、市民向けのセミナーの開催やパンフレットの作成、筋トレのサポーターや栄養指導をする人の教育研修を行っていくことが必要であり、医師等の専門職、市民サポーター、行政など多職種連携が重要であると述べられました。

最後に、本連絡協議会の大鋸光副会長（七宗町連協会長）より閉会あいさつが行われ、新国保制度の認識を新たに終了しました。